

特定外来生物

緊急対策外来種  
総合対策外来種

# オオキバナカタバミ!

学名 *Oxalis pes-caprae*

俗称 オキザリス



手入れが不要で花がたくさん咲くため、  
人家の庭先にも目立ちます

夜や曇りの日には花がつぼみ、晴れると徐々に開きます

南アフリカ原産で

世界各地の温帯地域に移入され

増えてしまいました



外来生物マニュアル特設ページ（他の外来生物の写真や音声などもご覧いただけます）

## 環境と生態

林縁の肥沃で柔らかい土壌を好み、日当たりの良い場所では12月頃から満開となり、春遅くまで花を咲かせます。盛夏を迎えるころから地上部の茎葉は枯れ始めて消滅しますが、地下に肥大した根と数個の椎の実型の球根（鱗茎）を残します。地下の球根は晩秋から春に発芽して一つの植物体を作るので、毎年数を増やして広がり、密生した群落になります。人家の庭先や道路脇でも見かけます。

## 形態

在来種のカタバミと同じく黄色い花を咲かせますが、葉も花も著しく大きく草丈は50cmにもなります。密生することと、葉に紫褐色の不規則な斑点があるのが特徴です。



オオキバナカタバミの花



オオキバナカタバミの葉（紫褐色の斑点が特徴）

## 在来近縁種

カタバミ

在来種

カタバミは小型で密生しません。  
実を作ります。



# 背景

オキザリスの名称で流通しています。

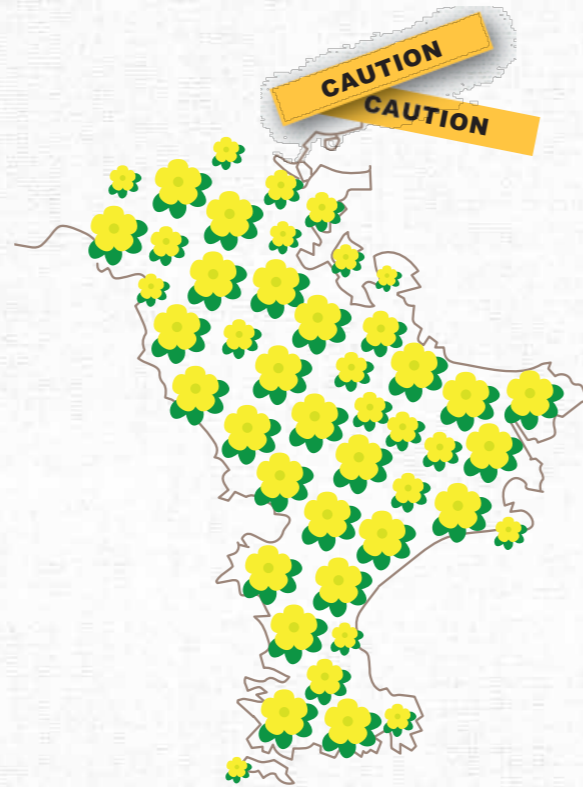
毎年たくさんの花を咲かせ、菜の花畑のような光景を作り出すので、駆除の対象とされないことが多いようです。

# 影響

林縁で広範囲を帯状に広がって春に地上を覆うことから、スミレ類・コハコベ・ムラサキケマン・ヒメウズ・キュウリグサなど林縁の在来植物を駆逐します。存在が確認された場所は、数年で他の草花が少なくなってしまう。



林縁に繁茂するオオキバナカタバミの群落



# 駆除に関して

地下の球根は千切れやすく、勢いよく引き抜くと地下に残ってしまいます。球根を採取する際には、大きめのスコップなどで注意深く 20~50 cmほど掘る必要があるため、大群落を形成した場所では一度にすべての球根を取り除くことはできません。

球根から地上部が育ちきった状態で、新しい鱗茎が大きくなる前のタイミングで引き抜くことが有効と思われます。

場所によって育ち方に差異はありますが、駆除の時期は2月~3月ごろが効果的と考えられます。地下の球根を一度にすべてなくすことは難しく、繰り返し引き抜きを行って群落を徐々に衰退させる必要があります。



オオキバナカタバミの除去作業

球根から発芽した地上部と肥大した根  
古い球根のすぐ下に小さな白っぽい球根が  
でき始めています

オオキバナカタバミの球根（鱗茎）



## 影響のある林縁の植物

タチツボスミレ

在来種

など



## 注意 可燃ゴミへ。

鱗茎と呼ばれる小さな球根から発芽するので、駆除作業に伴ってこれが逸出しないようにゴミ袋に入れて可燃ゴミへ。  
野積みにしたたり、粉碎して撒いたりしないようにしましょう。